



農林水産省支援 平成22年度 農商工等連携促進対策中央支援事業

6次産業化推進に向けたコーディネーター人材育成研修～連続開催(東京)～

<第4回> 農商工等連携における 新製品開発の方法

～製品コンセプトのつくりかた～

日時：平成23年1月20日(木)

13:00～17:00

場所：日本橋プラザ 3階 第3,4会議室

(東京都中央区日本橋2-3-4)

【研修の狙い】

昨今、農商工連携や食農連携、6次産業化など、食をと
おした地域活性化を目的とした取り組みが、全国各地で推
進されています。

いずれも、『連携』をキーワードとした取り組みで、これら
の成否は、事業を実施する生産者や事業者の努力と共に、
その活動をフォローし、取り組み全体をコーディネートする
コーディネーターの手腕にかかっているといえるでしょう。

食をとおした地域活性化に取り組むコーディネーターに
は、生産から小売までフードチェーン及びその他関連業種
に対する知識、地域文化や歴史に対する認識、行政施策
の情報等、幅広い視野を有した戦略的なコーディネートが
求められているといえます。

(社)食品需給研究センターでは、農林水産省の平成22
年度「農商工等連携促進対策中央支援事業」の一環として
、コーディネーターの持つべき視点を一連の流れとして
ご理解いただき、地域において実践していただくことを目
的とし、東京において全5回のシリーズ研修を行っておりま
す。

研修第4回目は、「農商工等連携における新製品開発の
方法」をテーマとした研修を行います。講義では、農商工
等連携における新製品開発の方法について学び、実践研
修では、講義での内容を踏まえ、ポジショニングマップの
作成を通じて、製品コンセプトのつくり方を考えていきます。

【本日のプログラム】

開会 13:00～13:05

プログラム、講師紹介

講義 13:05～14:30

農商工等連携における
新製品開発の方法

～製品開発ツールの紹介とその活用～

食と農研究所 代表 加藤 寛昭

(食農連携コーディネーター(FACO))

農商工等連携における新製品開発で抑えておきたいポ
イント、新製品開発の各段階で活用できるツールとその活
用方法を、大企業での製品開発の経験を持つ講師から学
びます。

<休憩> 14:30～14:40

実践研修 14:40～17:00

製品コンセプトのつくりかた

～ポジショニングマップ作成～

新製品開発において、製品コンセプトの構成要素をしっか
りと考えることが重要です。実践研修では、グループワーク
形式で、ポジショニングマップの作成を通じて製品コンセ
プトのつくり方を実践的に考えます。

閉会 17:00 <アンケート回収>



■実践研修進行方法

実践研修は、1グループ6～7名のグループワーク形式で、グループメンバーにより意見を出し合いながら進めます。研修参加者が自らの知識や経験にもとづき、主体的に新製品開発のポイントとなる、製品コンセプトのつくり方を考えていきます。

進行説明・準備

■進行説明(15分)

今回の実践研修では、各グループでポジショニングマップの作成を通じて、製品コンセプトのつくり方を考えていきます。

はじめに講師より、ポジショニングマップとは、ポジショニングマップ作成の目的、作業手順、グループワーク発言時の注意点などの説明を受けます。

■グループ分け・自己紹介(5分)

1グループ6～7名です。各グループのメンバー同士、簡単に自己紹介を行います。

■グループワーク - ポジショニングマップの作成(70分)

新製品開発において、製品コンセプトの構成要素をしっかりと考えることが重要です。「市場に直接的な競合品はあるか、市場の代替品は何か、それとの比較で差別的優位性は確保できているか」などといった視点に立ち、基本的な製品機能、パッケージデザイン、付加的な機能などに対する構成要素について話し合い、整理をしていきます。

●作業1(意見出し・グループ内情報の共有) (40分)

今回の研修では、市販の納豆を例に取り、ポジショニングの軸の取り方を考えます。

作業1-①

納豆の比較表をもとに、各グループに配布された納豆の原料の形状、産地、匂い、味、価格などの基本的な製品機能や、包装材料、ネーミング、表示などのパッケージ・デザイン機能などを見比べましょう。

作業1-②

納豆の比較表で検討した内容を、模造紙のポジショニングマップに記載していきましょう。各テーブルに用意されている付箋紙、マジックなどを活用し、グループ内の全員で情報を出し合いながら作業を進めましょう。

(注意点)

付箋紙に記載する情報は、単語だけでなく、他の人がみてもわかるような形で記載しましょう。

●作業2(内容の精査・取りまとめ) (30分)

グループ内で話し合い、出し合った情報の取りまとめ作業を行います。

【製品コンセプトの構成要素を把握します】

■グループ発表(30分)

講師と研修参加者全員に対し、グループを代表した発表者が、グループ内でまとめた内容を4～5分で発表します。

■まとめ(20分)

各グループの発表に対する講師からのコメント、総括をいただきます。

【農商工等連携による新製品開発において、持つべき視点を理解します】

グループワーク

発表グループ

まとめ

■講師のご紹介：加藤 寛昭 (かとう ひろあき)

ライオン株式会社で食品の営業、企画部、製品開発担当者(プロダクトマネジャー)としての実務経験を積み、マーケティングと事業計画立案、製品開発は最も得意としています。大企業の有する製品開発手法を、中小企業や農産物の加工場向けに使い易く手直しをして、きちんとステップを踏んだ特産品開発を実施し、売れる商品開発の実現を図っています。

本研修では、当研修講師監修のもと作成された教材を用いて、講義と実践研修を行います。

※詳しくは、食農連携コーディネーターバンクをご覧ください→ <http://www.fmric.or.jp/facobank/index.html>

■お願い

- ・研修の様子を写真に撮らせていただき、事業報告書やホームページでの報告などに掲載させていただきますので、ご了承下さい。
- ・研修終了後、アンケートをご提出にご協力をお願いします。